

日本、フルーレ「金」



東京のエペに続く団体V

フェンシング 男子団体

パリ五輪のフェンシング男子フルーレ団体を獲得した（左から）永野雄大、敷根崇裕、松山恭助、飯村一輝＝4日、パリ（共同）

【パリ共同】パリ五輪第10日の4日、フェンシング男子フルーレ団体決勝で日本がイタリアを45―36で下し、金メダルを獲得した。東京五輪の男子エペに続く2大会連続の団体制覇となった。これで日本は個人と団体で金2、銀1、銅2のメダルで終え、強化の成果を示した。

世界ランキング1位の日本は松山恭助（27）JTB、飯村一輝（20）慶大、敷根崇裕（26）、永野雄大（25）以上ネクサスIIの布陣。フランスとの準決勝を含め欧州の伝統国を破った。

【永野雄大の話】超緊張しました。ただピストの上では吹っ切れて、緊張があまりなかった。無我夢中に動いて、手を出そうと意識して試合した。うまくいって良かった。金メダルを取ることができて、本当にうれしい。

【敷根崇裕の話】東京五輪の悔しさを晴らせた気持ち。やっと男子フルーレが報われたと思うと、すごくうれしい。個人戦では精神面で強気にいけないところがあると感じたが、団体戦では強い自分でいられた気がする。

【飯村一輝の話】アンカーにすると伝えられ、最初はすごく血の気が引いた。最後の1点が取れた瞬間は夢なのか、現実なのかちょっと分からなくなかった。ただ歓声を浴びていたことが、すごくうれしかった。

【松山恭助の話】この金メダルは自分の悔しい思いだったりを、しっかり結果として表した、非常に重みのあるメダル。勝ったこともうれしいが、それ以上に恐怖と不安から逃げずに自分もチームも向かっていった。（共同）

（詳細は6日付朝刊で）